

ところ会 10月行事案内

令和元年、第10回テーマ

## 【坂東市・守谷市・我孫子市の史蹟・各種博物館を巡る】

令和元年の秋のバス旅行を下記の通り計画しました。

記

■日 時：令和元年10月18日（金）8時15分集合

■集合場所：西武線所沢駅東口・駅東郵便局前

■見学場所及び時間：

所沢駅東口 8:20→所沢 IC…関越道・圏央道（途中トイレ休憩あり）  
…境古河 IC →逆井城跡公園→ミュージアムパーク 茨城県自然博物館  
→昼食処（ベル・ジャルダン）→守谷城址公園→我孫子市鳥の博物館  
→手賀沼親水広場・水の館→柏 IC…常磐道・外環道・関越道（途中  
トイレ休憩あり）…所沢  
IC →所沢駅到着（18:00 頃  
解散）

■昼食処：ベル・ジャルダン

住所…茨城県守谷市  
松並青葉 4-1-12

TEL：050-5596-6707

三つ星レストラン出身  
シェフが季節の食材を活  
かして作る料理は、本格フ  
レンチから和の要素を取り  
入れた創作料理まで揃  
う華やかな一品が自慢で  
す。

■参加費用：

5,000 円（昼食代・入館料  
を含む）



## ■見学場所簡単ガイド

### <逆井（さかさい）城跡公園>



逆井城は逆井常宗によって築かれた城で、逆井氏の居城として知られています。坂井氏が北条氏に滅亡させられたあとは北条氏の下野・常陸方面への前線基地として使われた。この逆井氏時代の城を逆井古城、北条氏時代の城を飯沼城とも呼ばれます。

北条綱成の嫡男であり玉縄城主だった氏繁はこの城で没している。また、風魔小太郎の子である風魔孫右衛門など忍者集団 300 人が拠っていたともいわれている。現在は逆井城跡公園として整備されており、二層櫓や土塀などが発掘調査に基づき忠実に復元されています。

ほかにも関宿城の薬医門が移築されており、さらには枯山水庭園を備えた大台城の御殿も復元されるなど、戦国時代末期の面影を感じることもできる公園として、多くの人に親しまれています。

#### □：逆井城について

縄張形態：平城／標高（比高）：17.9 m／築城主：逆井常宗

築城開始：享徳年間（1452～1454年）／廃城：1590年（天正18年）

主な城主：逆井氏、後北条氏／遺構：土塁、掘割、土居

復元状況：櫓、土塀、主殿、櫓門、木橋／県史跡

### <ミュージアムパーク 茨城県自然博物館>

地球誕生から私たちの生きる現代まで、自然環境の視点からその歴史を学ぶミュージアムです。

宇宙から地球、生命へと展開していく第1～第5にわたる総合展示をはじめ、部門展示及び映像ホールでは身近な茨城県の自然についての資料を見ることができ、身近



な環境と地球全体の問題とが結びつくような構成が楽しめ、フィールドガイドや講座など、学んだ内容を生かせるイベントも多数開催。野外施設も充実しており、豊かな自然体験をかなえてくれます。



## ＜守谷城址公園＞

鎌倉時代に平将門が建てたと言われる守谷城の城跡を利用して作られた公園です。公園内は北園森林公園との接点であり、公園全体の中心的ゾーンである拠点ゾーン、多目的広場、芝生広場など、守谷沼と水辺の連続性を確保した散歩道が整備されている水辺ゾーン、公園整備前から存在する小さな丘をそのまま残している獺弁天ゾーン、守谷城跡の自然の景観や地形を損なわず、土塁や堀があるなど、城跡を生かした造りとなっている城址ゾーンに分かれています。市街地の外れにあり、西側はひがし野の住宅街となっていますが東側は一面が守谷沼を干拓した田園地帯となっており、北園森林公園が隣接しています。



### □：下総・守谷城

築城年代は定かではないが相馬氏によって築かれたと云われ、相馬氏は千葉氏の一族で千葉常胤の子師常が相馬御厨を治めて相馬氏を称した事に始まります。江戸時代に陸奥相馬中村藩となった相馬氏もこの一族です。

相馬氏は大永5年(1525年)には相馬因幡守が守谷城を居城としていたことが確認されており。戦国時代には古河公方に従い梁田氏の配下となっていたが、小田原北条氏の勢力が伸びてくると梁田氏は北条氏に降り、このとき守谷城は北条氏によって接收されました。北条氏は永禄11年(1568年)に守谷城を改修して、当初は古河公方足利義氏の御座所となるような話もあったようですが、結局実現しませんでした。天正18年(1590年)北条氏は豊臣秀吉によって滅ぼされ相馬氏もまた没落する。



北条氏に変わって徳川家康が関東に入部するとその家臣菅沼(土岐)定

政が一万石を領して守谷城主とり、元和3年(1617年)土岐定義のとき摂津国高槻城に転封となり、一時幕府直轄領となりましたが、元和5年(1619年)定義が没して土岐頼行が家督を継ぐと幼小であったことから一万石に減封され守谷藩へと移され、寛永5年(1628年)土岐頼行は出羽国上山へ転封となり廃城となる。

## <我孫子市鳥の博物館>

当博物館は、千葉県我孫子市が運営する博物館である。所管は、我孫子市教育委員会生涯学習部鳥の博物館。山階鳥類研究所が1984年(昭和59年)、我孫子市に移転したことをきっかけである。両者の関係は深いが別団体で、同研究所は民間団体で、鳥の博物館は市立で、日本で唯一、鳥類について総合的に研究・展示する博物館です。通称、鳥博(とりはく)と呼ばれています。



### 『常設展示』

常設展示は、1) 手賀沼の自然と鳥たち、2) 鳥の世界、3) 人と鳥の共存、以上三つのテーマで構成しています。鳥を生物学的な視点から紹介し(鳥の世界)、その目で地域の鳥と自然を観察し理解を深め(手賀沼の自然と鳥たち)、人と鳥が共存する知恵をさぐる(人と鳥の共存)というテーマ展開です。

#### □：手賀沼の自然と鳥たち(2階展示室)

四季の手賀沼のようすをジオラマでご覧いただけます。手賀沼は我孫子市のシンボル、広い水面や岸辺のヨシ原、周辺の水田などには、四季を通じて多くの鳥たちが生活しています。



#### □：鳥の起源と進化(3階展示室)

「鳥とは何か」という素朴な疑問からスタートし、鳥の起源と進化、世界の鳥、鳥の飛翔等について理解を深めてもらいます。鳥類誕生の鍵をにぎる始祖鳥の化石の復元展示をはじめ、絶滅鳥エピオルニス(Archaeopteryx lithuanica)の卵など貴重な展示が多く、色・形・大きさなどバリエーションに富む世界の鳥の実物剥製標本を一堂に展示しています。

#### □：世界の鳥コーナー(3階展示室)

ダチョウの仲間からスズメの仲間まで26目157科の世界の鳥を1科1



種を目標に収集した標本を 268 点を見る事が出来ます。

□：最後の 1 羽にならないために（3 階展示室）

野生では見るのできなくなった日本のトキ。剥製でしか見るのできないその姿は、私たちに人と鳥の共存の大切さを語りかけています。「最後の一羽にならないために」、「共に生きるために」、「人と鳥との関係」----- それぞれのコーナーを通して、私たち人類は鳥とどうかかわり、共存していったらよいのか、自然と調和して生きていくにはどうしたらよいか考えます。

## <手賀沼親水広場・水の館>

1 階に手賀沼ステーション、環境学習コーナー、農産物直売所・レストランがある。また、展望室があり手賀沼とその周辺をはじめ天候が良ければ東京スカイツリーや富士山までご覧になれます。

□：手賀沼ステーション

手賀沼に暮らす鳥や魚、植物といった生き物についての展示が観覧できます。説明パネルだけではなく、水槽やバードカービングが設置されており、楽しく見学が出来ます。

また、水環境保全活動に関する情報が掲示されており、手賀沼周辺でどのような活動が行われているのかひと目でわかります。



□：環境学習コーナー

環境学習コーナーに設置された「手賀沼水中散歩」では、タッチスクリーンで操作し、楽しみながら手賀沼の生き物について学ぶことができます。

□：農産物直売所・レストラン

農産物直売所では、我孫子産の安全・安心な新鮮野菜や農産物加工品などを販売しており、直売所と併せて設置されるレストランでは、我孫子産の農産物を生かした料理やデザートを楽しむことができます。また、オープンデッキもあり、手賀沼を眺めながら屋外での飲食にもご利用いただけます。

## 参考として

今回のルートは平将門のゆかりの地を通りますので参考として下記の解説分を記載してみました、参考にお読みください。

### <国王神社/ 茨城県坂東市>

祭神は平将門である。将門は平安時代の中期、この地方を本拠として関東一円を平定し、剛勇の武将として知られた平家の一族である。天慶三年(940)二月、平貞盛、藤原秀郷の連合軍と北山で激戦中、流れ矢にあたり、三十八才の若さで戦死したと伝えられています。



その後長い間叛臣の汚名をきせられたが、民衆の心にのこる英雄として、地方民の崇敬の気持は変わらなかった。当社が長く地方民に信仰されてきたのも、その現われの一つであります。

本社に秘蔵される将門の木像は将門の三女如蔵尼が刻んだという伝説があるが、神像として珍しく、本殿とともに茨城県文化財に指定されています。

#### □：平将門（たいらのまさかど）

平安時代中期の関東の豪族・桓武天皇の五世子孫。下総国・常陸国で伯父の平国香・平良兼ら一族と将門との争いが発生し、一族の争いが、やがては関東諸国を巻き込む争いへ発展する事になり「平将門の乱」が勃発。争いの延長でやむを得ず将門は国府を襲撃して印綬を没収、関東一円を手中に収め京の朝廷・朱雀天皇に対抗して「新皇（しんのう）」を自称し、独自に岩井（現・茨城県坂東市）に政庁を置いて東国（坂東）の独立を標榜しました。朝廷は将門を朝敵とみなし討伐軍を結成、天慶三年（940）2月14日、藤原秀郷・平貞盛らとの戦いで、飛んできた矢が将門の額に命中し討死します。

